



フリーアドレスという働き方

京 免 継 彦



当社は今年2月に新しい技術拠点をつくば市に開設しています。研究所機能と全国の現場支援機能を集中し、新しい働き方を作り上げる拠点を目的としています。様々な研究設備を備え、業務棟は当社建築技術の最先端モデルとするべく、ZEBやら TABS やら省エネ技術を詰め込んだ最新施設です。広く、綺麗、最新機器、まさに快適職場です。いままで満員電車で1時間以上かけて日本橋に通っていた事を考えると、プラス20分の通勤時間は苦になりません。web会議が当たり前になったおかげでほとんど本社にも行かなくて済んでいます。コロナ禍がもたらした、唯一の功なのでしょう。

さて、本題ですが、新しい働き方として「フリーアドレス」を採用しています。正直言って、移転の準備段階では、かなり「反対意見」が出ていたため、推進側の私にとってはストレスな課題でした。「本当に効率化につながるのか」「誰がどこにいるかわからない」「wifiトラブルは無いのか」などなど。5か月ほど続けた回答としては、たしかに「効率化にはなって無い」「どこにいるとウロウロ」「wifi切れる!」想定された問題は「ほぼ当たり」と言っているんです。困ったものです。という事で、フリーアドレスその功罪というあたりで、今の思いを書かせてもらいます。

最大の問題点は「朝挨拶しない」です。いつもの時間に事務所に入って、いつものルートでいつもの仲間の中を縫って、自分の席に座るから普通に「おはようございます」が出るのであって「今日はどこ座ろ」「えっと彼はどこの誰だっけ?」「○○さんがいるけど遥か向こうに座ってる」といった中では、なかなか「おはようございます」の発声ができません。無言で狙った席に座って、もちろん、その日のご近所さん(この人誰だっけ)も無言のまま、なんていう少し引っ掛かりのある朝が繰り返されているようです。さらに「時差出勤」が拍車をかけて「おはようございます」「お先に失礼します」の危機と言えます。元気な挨拶が仕事の基本だ!としてきた方には、とんでもないぞとなります。

ということで「そらみたことか!」となって、「フリーアドレス」撤回を求められてるかという、そうでもないようです。良い事もかかせてもらおうと、まずは「毎

日片づける」があります。終業時に、PC他を片付けてロッカーにしまうわけですが、必然的に「不要な紙資料」は始末するし、そもそも紙資料を使わなくなります。業者さんにも「パンフ要らない」データで送ってとなります。あと、今日の仕事はここまで、残った仕事は「これとこれ」仕事のONOFFが明確になって残業が減っています。残業でいうと、フリーアドレスは「スーっと帰りやすい」という面もありますね。そして「静か」です。電話の呼出しがひっきりなしに鳴って雑然としていた前職場に比べて、ホントにみんな居るの?というレベルで「静か」です。「フリーアドレス」に伴い「個人内線スマホ」である事と「打合せ」「web会議」スペースを分離できているので、無用な声がありません。集中して仕事できるという面もありますが「コミュニケーションが減った」という声も聞かれます。

さて「フリーアドレス」導入してみて、良い面悪い面いろいろあるのは、いわば当たり前なわけですが、同業他社の方々に聞いても、どんどん導入が進んでいるのは明らかです。このずいそうを書くにあたって、すこしネットで調べてみましたが「目的をしっかりと」「ルールを明確に」「失敗しないフリーアドレス」なんて言葉がつづられています。私は、少し違う感想を持っています。

突然ですが日本が素晴らしい社会であることは間違いないでしょう。何かと海外と比較して云々されがちですが、人口も国土も経済規模も価値観も違うグラフを基に語る事に違和感を覚えます。ただ、そういう日本も、この先変わらなくてはいけない事だけは間違いなく、特に「新しい働き方」を考えなくてはいけない時代になっています。今回の「フリーアドレス」一つとっても、「フリーアドレスで効率化」なんてものは目標目的の一つですらなく、「仕事って何?」レベルの変革の時代がもうすでに始まっています。

なんか与太話でまとめてますが、とりあえず「現場でフリーアドレスを進めたいと思っています。あと、朝の挨拶はSNSで。